

平成29年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 2 - 12
事務事業名	一般廃棄物中間処理施設広域整備事業			担当課係	市民生活課 環境企画・公害担当
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり		内線等	
	施策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		E-mail	
	基本方針	2-1-5 生活関連施設の整備			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2
	目	1	清掃総務費	事業	7
開始年度	平成 28	年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 小松島市民
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 老朽化したごみ処理施設を更新し、安定したごみ処理を行うため、徳島市を中心に、小松島市、勝浦町、石井町、松茂町及び北島町の2市4町で新しいごみ処理施設を整備する。
事業の内容 (内容・手法等)	(こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 老朽化したごみ処理施設の更新について、各市町が単独で整備することは困難であることから、広域整備についての検討を行い、小松島市及び周辺4町が徳島市に新施設の整備と管理運営に関する事務を委託する「事務委託方式」により実施することとし、必要な協議・検討を進めている。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 平成27年11月の徳島東部地域環境施設整備推進協議会解散以降、ごみ処理施設の整備について周辺4町と協議を重ね、平成28年5月に徳島市に対し広域ごみ処理に係る要望書を提出、以降、6市町により広域整備に向けた協議を続けてきた。平成28年11月に新施設の最有力候補地を選定し、平成29年3月には「一般廃棄物の広域処理に関する協定書」を締結した。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	単位	H28	H29	H30	H31	目標年度	
						目標値	
						実績	
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H28	H29	H30	H31	指標の説明
住民説明会開催回数	回	計画					
		実績		1			
作業部会開催回数	回	計画					一般廃棄物の広域処理に係る作業部会（前身の担当者会含む）の開催回数
		実績	8	7			
		計画					
		実績					
		計画					
		実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

		28年度決算	29年度決算	29年度予算	30年度予算	
全体コスト(円)	A 直接事業費	0	1,804,990	5,229,000	6,766,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
	B	人件費 ①×②	0	5,607,598		
		職員平均人件費①		8,010,854		
	従事した割合②/人		0.70			
	A + B	0	7,412,588			
単位コスト	活動指標の説明				備考	
	活動指標1 単位当たりコスト				平成28年4月1日現在 人口39,358人	
	市民一人あたりのコスト	0	191		平成29年4月1日現在 人口38,817人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 循環型社会の構築に寄与できる一般廃棄物処理施設の整備を進めるため、国交付金の交付要件は「人口5万人以上又は面積400ha以上」とするなど、国の方針としては広域化による施設整備を推進している。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市の財政や現行施設の状況等から、広域整備について一定の理解を示す声がある一方で、新施設の最有力候補地が勝浦川に近接していることから、水質など環境面への影響を懸念する声もある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	現行のごみ処理施設は建設から35年が経過しており、維持補修に多額の費用を要している。安定したごみ処理を継続して行うためにも、事業の必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	一般廃棄物の処理は自治体の責務であることから、市が行わなければならない。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	6市町による広域整備であるため、単独で整備する場合と比べ、財政面での効率性は高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	現行施設は老朽化しており、維持補修に費用をかけて安定したごみ処理に努めている。新施設の建設には一定の年数を要するため、他事業に優先して実施する必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	関係6市町による協議・検討を重ねた結果、平成30年3月に「一般廃棄物中間処理施設整備基本計画」(案)の柱となる基本的事項が取りまとめられた。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	現行施設の老朽化の状況から、新施設の必要性については一定の理解が得られているが、引き続き事業主体である徳島市と連携を図りつつ、住民に説明を行っていくことで事業への理解を深めていく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	現行施設は建設から35年が経過しており、施設の更新は喫緊の課題であるが、市の財政状況を考えると単独整備は困難であり、6市町による広域整備を進めていく必要がある。		
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点					
		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点				評価点	86
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点				1	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下					

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明	今後も徳島市の事業進捗に応じて住民への説明を行うことで事業理解に努め、6市町による広域整備を推進するとともに、ごみ減量化施策に向けた啓発等への取り組みも行っていく必要がある。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		